

2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年8月14日

上場会社名 株式会社うるる 上場取引所 東
 コード番号 3979 URL <https://www.uluru.biz/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 星 知也
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 近藤 浩計 TEL 03(6221)3069
 四半期報告書提出予定日 2018年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	482	19.2	85	21.1	85	21.3	60	19.2
2018年3月期第1四半期	405	—	70	—	70	—	50	—

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 59百万円 (18.1%) 2018年3月期第1四半期 50百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	18.51	18.16
2018年3月期第1四半期	15.62	15.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	2,907	2,002	68.9
2018年3月期	2,813	1,942	69.0

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 2,001百万円 2018年3月期 1,942百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,137	12.1	376	△3.6	354	△9.1	279	△2.9	85.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

第2四半期（累計）の連結業績予想は行っておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	3,259,100株	2018年3月期	3,257,900株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	－株	2018年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	3,257,913株	2018年3月期1Q	3,241,100株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2018年4月1日～2018年6月30日)における我が国経済は、政府による経済政策や金融政策を背景に、雇用環境や企業業績の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、海外では米国の通商政策による輸出企業への影響、朝鮮半島情勢を巡る警戒感の高まりなど先行き不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く経営環境につきましては、当社グループのビジネスの中核である、クラウドソーシングのクラウドワーカーを活用して生み出されたサービスを展開するCGS事業(Crowd Generated Service)においては、官公庁等の入札情報を提供する入札情報速報サービス「NJSS(エヌジェス)」が業績を牽引しておりますが、国内情報サービス業の売上高規模は2017年においては11兆3,814億円(前年比3.5%増加)と6年連続で成長を続けております(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」)。また、CGSのリソース供給源であるクラウドソーシングの市場規模は、矢野経済研究所「BPO(ビジネスプロセスアウトソーシング)市場の実態と展望2016-2017」によると、2016年度の流通金額規模(仕事依頼金額ベース)は前年比46.2%増の950億円となっております、2020年度には2,950億円に達すると予測されています。

このような状況のなか、当社グループにおきましては、CGS事業で展開する入札情報速報サービス「NJSS」の拡大、その他のCGSの拡大、新規CGSの創出に注力して参りました。また、CGSのリソース供給源である、クラウドソーシングサービスである「シュフティ」のUI・UXの改善、そして企業のアウトソーシング・ニーズに対応するBPO事業については、将来の売上・利益につながる受注獲得のための営業活動に注力いたしました。この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は482,794千円(前年同期比19.2%増)と堅調に推移し、営業利益は85,310千円(前年同期比21.1%増)、経常利益は85,229千円(前年同期比21.3%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は60,311千円(前年同期比19.2%増)と増収増益を達成いたしました。

各セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間より、CGS事業におけるNJSS以外のサービスの重要性が増してきており、報告セグメントを従来の「CGS事業」、「BPO事業」及び「クラウドソーシング事業」の3区分から、「CGS事業NJSS」、「CGS事業その他」、「BPO事業」及び「クラウドソーシング事業」の4区分に変更しております。なお、以下の前年同四半期比較においては、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

① CGS事業 NJSS

CGS事業におきましては、当社グループの業績を牽引する「NJSS」については、入札・落札案件情報を閲覧できるウェブサービスの有料契約件数について、インターネットでのリスティングやSEOによるマーケティングに加え、展示会出展等のリアルな場でのマーケティング実施の成果もあり、順調に推移しました。顧客単価についても、高単価なプレミアムプラン・プラチナプランの受注が引き続き順調に獲得できたこと、及び営業のマネジメント体制強化により、顧客単価の向上もいたしました。また、入札資格の管理支援サービスの提供及び入札に関するデータ販売についても順調に推移しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるCGS事業NJSSの売上高は292,320千円(前年同期比14.9%増)となり、セグメント利益は180,483千円(前年同期比7.8%増)となりました。

② CGS事業 その他

CGS事業その他の業績は、CGS事業の「NJSS」以外のサービスの業績から算出しております。その内、多くを占める、保育園・幼稚園向けの写真販売システムを提供する「えんフォト」では、営業活動の拡大によりサービスを利用して頂いている保育園・幼稚園が増加しました。また、前連結会計年度にサービス提供を開始した新規CGSである、クラウドワーカーを活用したコール代行サービス「フレックスコール」の受注状況が順調に推移しました。また、その他にも新規CGSには事業検証のための投資を引き続き行いました。

この結果、当第1四半期連結累計期間におけるCGS事業その他の売上高は40,819千円(前年同期比59.3%増)となり、セグメント損失は4,864千円(前年同四半期は11,635千円の損失)となりました。

③ BPO事業

BPO事業におきましては、顧客からの再受注拡大を狙った新たな営業活動手法が功を奏し、また、前年度に弁護士ドットコム株式会社との業務提携を機に開始したクラウドサインSCANの受注獲得等も順調に推移し、当第1四半期連結累計期間におけるBPO事業の売上高は140,855千円(前年同期比21.4%増)となり、セグメント利益は8,980千円(前年同期比7.5%増)となりました。

④ クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業におきましては、登録クラウドワーカーが約38万人まで増加しました。また、CGS事業やBPO事業のプラットフォームとしての位置付けから、ユーザー利便性を高めるためのサービス改修

を継続しております。この結果、当第1四半期連結累計期間におけるクラウドソーシング事業の売上高は8,798千円（前年同期比2.4%減）となり、セグメント損失は30,554千円（前年同四半期は25,131千円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産については、前連結会計年度末と比べ93,476千円増加し、2,907,317千円となりました。これは主に現金及び預金の減少39,557千円、売掛金の減少18,381千円、流動資産にかかるその他の増加170,693千円によるものです。

負債については、前連結会計年度末と比べ34,084千円増加し、905,199千円となりました。これは主に前受金の増加97,985千円、未払法人税等の減少27,929千円、流動負債にかかるその他の減少23,176千円によるものです。

純資産については、前連結会計年度末と比べ59,391千円増加し、2,002,117千円となりました。これは主に利益剰余金の増加60,311千円によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想については、2018年5月14日に決算短信で公表しました内容に変更はございません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,534,407	2,494,850
売掛金	110,171	91,790
仕掛品	3,940	934
その他	49,123	219,816
貸倒引当金	△844	△723
流動資産合計	2,696,798	2,806,668
固定資産		
有形固定資産	42,308	42,076
無形固定資産	6,142	5,655
投資その他の資産	68,591	52,917
固定資産合計	117,043	100,649
資産合計	2,813,841	2,907,317
負債の部		
流動負債		
買掛金	63,869	41,675
1年内返済予定の長期借入金	8,843	7,235
未払法人税等	41,751	13,821
前受金	474,522	572,508
賞与引当金	—	12,691
その他	280,443	257,266
流動負債合計	869,430	905,199
固定負債		
長期借入金	1,685	—
固定負債合計	1,685	—
負債合計	871,115	905,199
純資産の部		
株主資本		
資本金	945,102	945,153
資本剰余金	927,402	927,453
利益剰余金	71,422	131,734
株主資本合計	1,943,926	2,004,340
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△1,358	△2,358
その他の包括利益累計額合計	△1,358	△2,358
非支配株主持分	157	136
純資産合計	1,942,725	2,002,117
負債純資産合計	2,813,841	2,907,317

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
売上高	405,099	482,794
売上原価	109,647	134,950
売上総利益	295,451	347,844
販売費及び一般管理費	225,033	262,533
営業利益	70,418	85,310
営業外収益		
受取利息	6	9
雑収入	10	80
ポイント収入額	220	11
貸倒引当金戻入額	—	131
営業外収益合計	236	233
営業外費用		
支払利息	76	22
為替差損	331	291
営業外費用合計	407	313
経常利益	70,246	85,229
税金等調整前四半期純利益	70,246	85,229
法人税、住民税及び事業税	4,805	9,895
法人税等調整額	14,828	15,018
法人税等合計	19,634	24,914
四半期純利益	50,612	60,314
非支配株主に帰属する四半期純利益	2	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	50,609	60,311

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	50,612	60,314
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△417	△1,010
その他の包括利益合計	△417	△1,010
四半期包括利益	50,195	59,304
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	50,196	59,311
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△7

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自2017年4月1日至2017年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	CGS事業 NJSS	CGS事業 その他	BPO事業	クラウドソー シング事業	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	254,387	25,631	116,066	9,013	405,099	—	405,099
セグメント間の内 部売上高 又は振替高	4,444	1,337	5,188	476	11,447	△11,447	—
計	258,831	26,969	121,255	9,490	416,546	△11,447	405,099
セグメント利益又は 損失(△)	167,360	△11,635	8,354	△25,131	138,947	△68,529	70,418

(注) 1. セグメント利益の調整額△68,529千円は、セグメント間取引消去50千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△68,580千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1.	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2.
	CGS事業 NJSS	CGS事業 その他	BPO事業	クラウドソー シング事業	計		
売上高							
外部顧客への売上 高	292,320	40,819	140,855	8,798	482,794	—	482,794
セグメント間の内 部売上高 又は振替高	4,424	3,452	4,921	719	13,518	△13,518	—
計	296,745	44,272	145,777	9,518	496,313	△13,518	482,794
セグメント利益又は 損失(△)	180,483	△4,864	8,980	△30,554	154,044	△68,734	85,310

(注) 1. セグメント利益の調整額△68,734千円は、セグメント間取引消去65千円、各報告セグメントに配分していない全社費用(主に販売費及び一般管理費)△68,799千円であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、CGS事業におけるNJSS以外のサービスの重要性が増してきたことから、報告セグメントを従来の「CGS事業」、「BPO事業」、「クラウドソーシング事業」の3区分から、「CGS事業 NJSS」、「CGS事業 その他」、「BPO事業」、「クラウドソーシング事業」の4区分に変更しております。なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分に基づいて作成しています。